

教育実習対策と教員採用試験に向けて

齋藤正俊

1. 教育実習対策

2年間教育実習に関わった感想としては、学生は実習について漠然とした不安を持って臨んでいるということである。その不安を払拭するためにはどのように、取り組むかであるが、23年度及び24年度の実習後アンケート回答内容を見ると①指導案の書き方がわからない、②模擬授業がもう少し必要、③教材研究の仕方・考え方がわからない、④授業における安全管理について注意を受けた等が多い。これらについて考え、指導していけば現場での活動の支えになるはずだ。

項目毎に考えると、①の指導案については学校現場にはそれぞれの書式があり、大学で学んだ内容との違いに戸惑いを覚え、対応できていないようだ。問題は書き方ではなく何を書く必要があるかである。それを理解すれば問題は解決する。②の模擬授業は、保健体育科教育法では学生数が多いため全員の模擬授業の時間を確保することができていない。したがって本学の各実技段階で授業内容を教授法も組み込んだものを考え、模擬授業を経験させる等の試みが必要ではなかろうか。③教材研究については50分の授業にかける教材研究は授業時間の3倍位の時間を要する等を理由を説明して理解させる。④の授業における安全管理は、授業を安全に行うこと、体育の授業にふさわしい服装であることや生徒の体調に配慮すること等は現場での基本事項である。また、現場の先生方の要望として、生徒に示範できるだけの実技力が必要とあった。対応としては、本学の授業時にスキルアップと実習前に担当する種目を練習することである。

要は常に「安全性を基本とした授業を考え、教材研究する姿勢を持つ」ように意識づけることであり、学生には事前指導の際に現場の状況を説明

しながら指導する必要がある。

2. 教員採用試験に向けて

兵庫県、神戸市を中心に教員採用状況を考えると、全体的に採用は厳しく、特に中高の場合は厳しい。その中で一定の成果をあげるためには、時間をかけて学生を啓蒙し採用試験に向け取り組ませる必要がある。現状としては中高保健体育教員採用試験に合格したのは23年度は現役では0であったが、24年度は1名が中学校の1次試験に合格している。高校では23年度卒業生の1名が補欠ではあるが高校に合格しており、学生の意志の強さがよい結果を生んでいる。また、通信課程で小学校教員を目指した者が兵庫県、香川県、堺市に各1名ずつの合格者がでており、内2名は川崎市も合格していた。この流れを現役生に伝え意識を高めていければ、徐々に合格者は上向きになると思いたい。

具体的な方策としては、教員を目指す者同士が目標に向かって努力できる環境づくりが必要である。24年度小学校に合格した3名は、常に学習する場を共有し教員採用試験に取り組んでいた。このように教員採用試験を「団体戦」と位置付け仲間同士が集い切磋琢磨しあうこと、ゼミや授業において早い時期に教職の重要性を理解させ、生半可な気持ちではなれないこと等指導をしたうえで、彼らの意志を確認し、方向づけを図る。大学としては教育委員会との連携を密にして情報等の環境整備を充実させる。そして委員会情報のみならず、Tアカデミーのような外部情報も学生に提供していくのも一方法である。